

授業科目名	言語発達学	単位数	2単位
担当教員名	伊藤一美	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
「学位授与の方針」との関係			
<p>DP1.多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけることができる（貢献力）</p> <p>DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知）</p> <p>DP3.自分の専門以外の領域からも得られた知見を統合することができる（統合知）</p> <p>DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）</p> <p>DP5.共生社会創造の目的のために、様々な分野について絶えず学び続ける態度を持つことができる（継続力）</p>			
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 初期の言語獲得の過程および読み書きの発達過程を理解する。</p> <p>(2) 言語獲得の理論を理解する。</p> <p>(3) 言語のさまざまな側面から、言語が持つさまざまな機能について考究する。</p> <p>(4) 言語発達の障害と言語障害および発達性ディスレクシアについて理解する。</p> <p>(5) 第二言語・外国語学習の在り方について探究する。</p>			
授業の概要			
<p>初期の言語獲得(母語)および読み書き言語の過程とその理論的背景を学ぶことをとおして、言語が持つさまざまな機能について、アクティブラーニングの手法を用いて考究する。言語はコミュニケーションの機能だけではなく、人との関係を築く上で重要な役割を果たしていること、さらには思考の道具のひとつであることを理解する。さらに日本語を第二言語として学習すること、外国語学習の在り方について探究することを目指す。</p>			
授業計画			
<p>第1回：言語獲得の過程（1） 前言語期のコミュニケーション</p> <p>第2回：言語獲得の過程（2） 養育者の役割</p> <p>第3回：言語獲得の過程（3） 共同注意</p> <p>第4回：言語獲得の過程（4） 音韻の発達</p> <p>第5回：言語獲得の過程（5） 語彙獲得の理論的背景</p> <p>第6回：言語獲得の過程（6） 文法と語用論</p> <p>第7回：言語獲得の過程（7） ナラティブと会話能力</p> <p>第8回：言語獲得の過程（8）読み書きの発達過程</p> <p>第9回：言語がもつさまざまな機能について（1）コミュニケーション言語と学習言語</p> <p>第10回：言語がもつさまざまな機能について（2）思考と言語</p> <p>第11回：言語発達の障害と言語障害および発達性ディスレクシア</p> <p>第12回：事例検討（1） 言語獲得・コミュニケーションにつまずきを示す事例</p> <p>第13回：事例検討（2） 読むこと・書くことにつまずきを示す事例</p> <p>第14回：バイリンガルと第二言語習得</p> <p>第15回：まとめ 言語発達とコミュニケーション</p> <p>定期試験</p>			
スクーリングでの学修			
<p>言語獲得の過程、言語がもつさまざまな機能、言語発達の障害と言語障害および発達性ディスレクシア、事例検討(アクティブラーニング)、バイリンガルと第二言語習得について、講義を行う。</p>			
テキスト			
<p>岩立志津夫・小椋たみ子(2017)『よくわかる言語発達改訂版』 ミネルヴァ書房 978-4623080335</p>			
参考書・参考資料等			
<p>今井むつみ・針生悦子(2014)『言葉をおぼえるしくみ—母語から外国語まで—』 ちくま学芸文庫 978-4480095947</p> <p>宮本 信也(編)(2019)『学習障害のある子どもを支援する』 日本評論社 978-4535563735</p>			
学生に対する評価			
<p>スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）</p>			